
巻 頭 言

副学長（評価担当）

評価センター長 西 田 眞

平成26年度版「年報・研究紀要」の発行に当たり、まずは評価センターの活動に、日頃多大なご支援並びにご理解を頂いておりますことに対して、感謝申し上げます。

評価センターの主な活動は、前年度の業務評価（年度評価）への対応や、当該年度の年度計画の進捗状況取り纏め、次年度の年度計画策定支援などの法人評価への対応のほか、認証評価への対応などとなります。平成26年度に実施された国立大学法人評価委員会による「平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果」、並びに平成26年度の評価センターの具体的な活動内容については詳細を別掲しておりますので、そちらをご一読頂ければ幸いです。

さて、ご承知のように平成28年3月末をもって第2期中期目標期間が終了し、平成28年4月より第3期中期目標期間へと移行します。このため、評価センターでは平成26年度から27年度に掛け、年度評価への対応に加えて、次に示す事業及び報告書等の作成支援をも併せて進めております。

- ①平成27年度及び第2期中期目標期間の実績報告書作成（提出期限：平成28年6月30日）
- ②第2期中期目標期間の教育研究に係る実績報告書作成（提出期限：平成28年5月31日（研究業績説明書）、6月30日（教育研究に係る実績報告書））
- ③第3期中期目標・中期計画策定（素案提出期限：平成27年6月30日、原案提出期限：平成28年1月31日）

①平成22年度をスタートとする第2期中期目標期間全体6年分の実績報告書の提出が求められており、この取り纏めの準備作業を進めつつあります。②は第2期中期目標期間中に実施された教育研究に係る活動状況と成果を報告書として取り纏めるものです。教育に係る実績報告書は各学部・研究科それぞれを単位として、研究に係る実績報告書は学部研究科を一つの単位として取り纏める必要があります。「提出までに1年以上あるではないか…」とは思わないで下さい。教育実績報告書には、観点に沿った、例えば「卒業・修了生の進路先や就職先等関係者への意見聴取結果」等を記載することが求められます。研究実績報告書でも、「関係者の期待に込んでいるか」との観点で分析した内容を具体的に記載することが求められます。いずれも準備に相当の時間を要しますので、教職員皆様方に一層のご協力をお願いする次第です。

③は来たる第3期中期目標期間における秋田大学の中期目標・中期計画を策定する業務になります。AU-CISを通じてご承知と存じますが、澤田学長指導の下、大学戦略室に「第3期中期目標・中期計画検討プロジェクトチーム」が設置され、素案の作成に当たっており、評価センターも作業の支援をさせて頂いております。

さて、評価とインセンティブやペナルティーは常識的に考えて表裏一体で実施されます。第1期中期目標期間（平成16年度～21年度）では、暫定評価（平成19年度までの4年間）における総合評価ウエイトに基づく「運営費交付金の評価反映分」の配分（増・減）が実施されました。第1期同様に、第2期中期目標期間（平成22年度～27年度）も評価結果を運営費交付金等の算定に反映することされてはいるものの、具体的な反映方法についての情報は今のところありません。これに対して、平成28年度からスタートする第3期中期目標期間については「国立大学法人運営費交付金の見直しの基本的な方向性について」の議論の中で、評価と配分への方法も検討され、年度ごとの評価や中間評価など種々な方法についても審議されております。第2期の評価方法そして将来の評価の在り方など不明な点がありますが、評価センターでは、評価に関する情報を可能な限り収集し、対応を心がける所存です。

さて、平成27年度は第2期中期目標期間の最終年度であり、第3期への移行期間となります。評価センターは各部局等と密接な連携を図り、秋田大学にとって重要な評価活動を進めていくつもりでおりますので、これまで以上のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。